

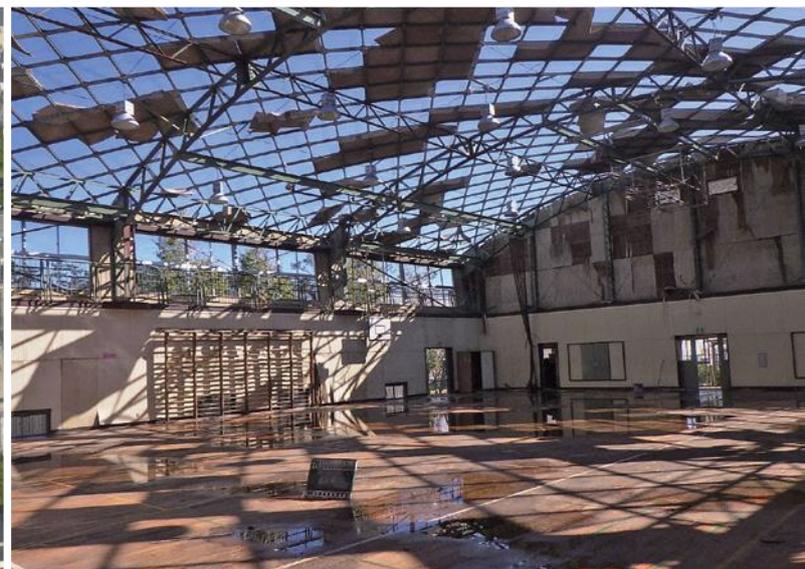
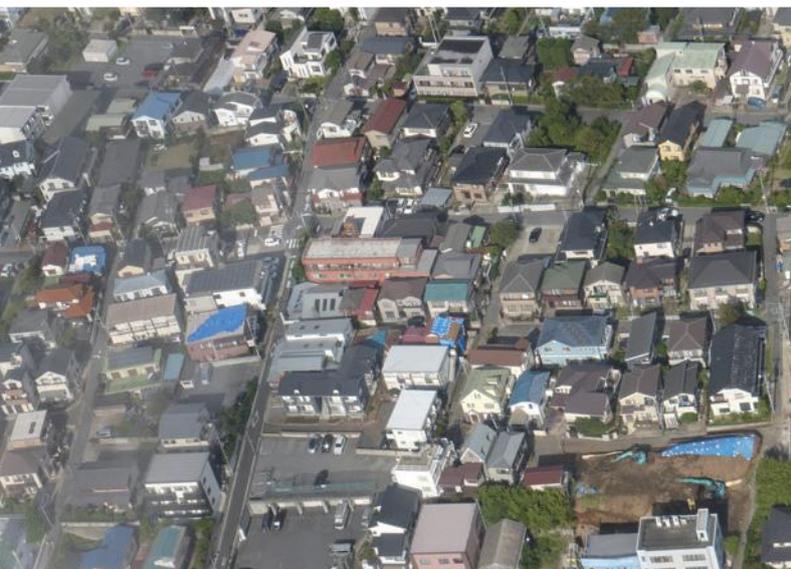


令和元年 災害記録誌

2019.9.9/10.12/10.25



千葉市





はじめに

千葉市は、令和元年9月から10月にかけて、台風や大雨により次々と被災しました。10月25日の大雨による土砂災害でお亡くなりなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様方に心からお悔やみ申し上げます。また、被災された全ての方に心からお見舞い申し上げます。

9月9日の令和元年房総半島台風では、最大瞬間風速57.5m/sの記録的な暴風による家屋の屋根の破損、倒木などが多く発生するとともに、広範囲で長期間の停電が続き、市民生活に多大な影響を及ぼしました。停電に伴う断水や通信途絶も発生し、被災者の中にはSOSの声を上げることすらできない方もいました。また、10月12日の令和元年東日本台風では、本市へ上陸はしなかったものの、房総半島台風による被害の復旧が終わっていない中での被災となり、過去の同程度の雨量や風速を記録した台風と比べ、多くの被害が発生したほか、事前に避難を促したことなどから、避難者数が過去最多となりました。さらに、10月25日の記録的な大雨は河川の氾濫や内水氾濫を引き起こし、多くの床上床下浸水や道路冠水等が発生するとともに、土砂災害により3名の尊い命が奪われました。

これら一連の災害による被害は、これまで経験したことがない甚大なものとなりました。

国の関係省庁や自衛隊、全国の自治体、関係機関、民間企業、ボランティアなどの皆様には、災害対応へのご協力のほか、物資、義援金などの多くの支援を賜わり、改めて心から感謝し、お礼を申し上げます。

本市では、被災直後には、国、千葉県、関係機関と連携するとともに、他政令市の支援による給水車の配置、民間企業などの支援を受けた被災住宅への応急修繕や倒木処理、協定に基づく福祉施設への電源供給等のプッシュ型支援など、被災者に寄り添った復旧復興に取り組んでまいりました。

今後も、全国的にも例のない、広範囲かつ長期間の停電対応等の経験を教訓として活かし、全国に先駆けた「災害に強いモデル都市」の実現を目指すため、市としての取組みの方向性を示した「災害に強いまちづくり政策パッケージ」を策定し、全職員一丸となって取り組んでまいります。

こうした中、この災害の記憶を風化させることなく、教訓を次世代に継承することを目的に、被害状況や災害対応など取りまとめた災害記録誌を作成しました。

本誌が市民の皆様への防災・減災への取組みの一助となれば幸いです。

令和2年10月

千葉市長 熊谷 俊人

目次

第1章 千葉市の概況	1
第2章 気象・被害の概要	
2.1 令和元年房総半島台風（台風第15号）の概要	2
2.2 令和元年東日本台風（台風第19号）の概要	14
2.3 令和元年10月25日大雨の概要	19
第3章 災害対策本部の活動	
3.1 災害対策本部員会議	32
3.2 災害対策本部の設置	33
3.3 避難情報の発令	34
3.4 災害対策本部事務局の活動	35
3.5 災害対策本部各部等の活動	38
第4章 被災者の救助・支援	
4.1 救助活動	42
4.2 避難所運営	44
4.3 他機関、民間事業者及びボランティアによる支援	46
4.4 市による応急支援	54
4.5 帰宅困難者への支援	57
4.6 生活再建へ向けた支援	58
第5章 将来に向けた防災・減災対策	
5.1 千葉市地域防災計画及び千葉市水防計画の修正	60
5.2 災害に強いまちづくり政策パッケージ	62
5.3 協定締結の推進	66
第6章 民間事業者からのメッセージ	68